

OKoTaC 通信

オコタック

2014年8月20日発行

NO.18



↑ころちゃんクリアファイル作成企画 応援募集中!

P 2-3 NPO活動報告

セミナー『グローバル人材と外国ルーツの子どもたち』

外国にルーツをもつ子どもの教育支援学習会『できました！渡日生用教材（理科）』

P 4 多文化な子ども@大阪のニュース

『外国人保護者対象の母語教育講演会』

ころちゃんお役立ち情報(7)

『インターネット上の日本語学習サイト』

P 5 特別寄稿

『カナダ・トロントでの異文化理解教育等の研究会に参加して』

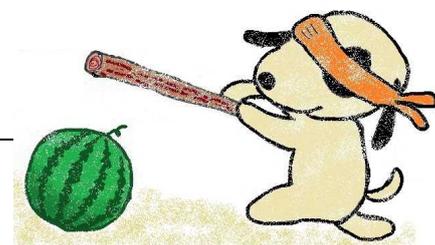
P 6 Air Mail メキシコ便り⑩

『アルゼンチン・サルタ』

P 7 地域の子ども支援教室から⑩

『曙光中高生クラス』（大阪府東大阪市）

P 8 イベント情報





おおさかこども多文化センター 活動報告(1)

セミナー「グローバル人材と外国ルーツの子どもたち」開催

7月12日(土)、ヒューライツ大阪との共催によるセミナー「グローバル人材と外国ルーツの子どもたち」が、ヒューライツ大阪セミナー室にて開催されました。講師は、朝日新聞大阪本社・社会部記者で、オコタックの会員でもある浅倉拓也さん。これまで外国につながる子どもたちの教育や仕事にフォーカスしながら、いろいろな分野での活動をされてきた浅倉さんのお話を伺おうと、47名が参加されました。その中のお一人で、同じくオコタック会員の大阪市立市岡中学校教員・松田和典さんが、当日のレポートを寄せてくださいましたのでご紹介します——

「グローバル化、グローバル人材ということばを聞かない日はない、これは最重要課題です」という言葉から浅倉さんのお話は始まりました。朝日新聞社に入るまではジャパントイムズにいらっしやっただけで、日本で暮らす外国の方にかかわる話題を扱う中で、難民問題に出会い、またオーバーステイで日本にいる家族の子どもの問題について考えるようになられたそうです。今回は記者の視点からということで、「移民をめぐる現状」「グローバル化と就職」「大学もグローバル化」「グローバル人材

としての外国ルーツの若者」「ルーツに誇りを」という各項目についてお話をされました。

現在、外国人登録者数は約205万人(2013年)で激増、留学生は3万2600人で微減しているが難民申請者は13万5000人で急増している。また、2012年度、日本語指導が必要な外国人児童生徒は2万7013人でやや減少したが、日本語指導が必要な日本国籍の児童生徒は6171人で過去最高だった。その理由の一つに国際結婚の増加がある。

これらの外国から来る人たちを私たちは社会にとって負と捉えるのではなく、財産だと捉えるべきだ。就職戦線でもグローバル化が進んでおり、外国人留学生の採用は企業全体の4割で(大企業は8割)、採用理由の1位は「国籍に関係なく優秀な人材の確保」だ。グローバル人材としての外国にルーツを持つ若者の多文化・多言語は企業にとって大きなアドバンテージを持っている。さらに日本育ちなら採用側も安心できるという側面もあり、そのためにも、外国ルーツの生徒たちには、まずは高校進学を目指してほしい。そして後輩たちのロールモデルになってほしいという浅倉さんのお話でした。

参加者も、高校や大学の先生、アメリカ在住の大学の先生、日本語ボランティア組織の代表者、在日3世の方、国連の仕事で長くスイスに在住された方、地域の方など多彩で、様々な意見が出ました。「そうは言ってもなかなか厳しい面がある。在日だからということで不採用になった学生もいる」といった声が聞かれたり、また「グローバル人材の育成が急務と言われる中、国益がどうだとかこうだとか、常に日本を起点としてしか考えないのでは、本当のグローバル化もできないし、人材も育たないのではないか」といった問題提起等、国境やナショナリズムを超えたところにこそグローバル人材の活用という考え方があるという点で、活発な意見が交わされました。

学校現場では「生きる力」ということがよく言われますが、本人のがんばりもさることながら、やはり受け入れ側の意識改革が必要だと強く感じました。グローバル人材である、外国にルーツをもつ児童生徒が、幸せな将来を迎えられることを願っています。



おおさかこども多文化センター 活動報告(2)

外国にルーツを持つ子どもの教育支援学習会 開催

7月30日(水)、ヒューライツ大阪セミナー室で、「外国にルーツをもつ子どもの支援学習会」を開催しました。講師の井上泰雄さんは、オコタック会員で元大阪市立中学校理科教員。「帰国した子どもの教育センター校」で海外から編入学してきた子どもへの日本語指導も担当され、その中で、渡日生用中学校理科教材を作成されました。その経緯から、教材の特色や具体的な使い方まで、長年の経験に基づいたお話に、28名の参加者は熱心に聞き入っていました。後半は小グループに分かれ、実際に教材を使った指導を考えるワークショップも行われました。参加者のお一人でオコタック会員の大阪市立豊崎中学校教員・小林悦子さんが、感想を寄せてくださいました——

去年、私たちセンター校担当者の中学校部会で大阪市の「がんばる先生支援予算」を使って「渡日生のための理科教材」と「英語ワーク」を冊子にして、大阪市の全中学校に配布した。その理科を作ったのが井上さんで、以前から長い時間をかけて作ったものがあったのだが、より子どもたちが使いやすいように、分かりやすいようにということにこだわって、どんどん進化してできあがったのがこの教材だ。そのこだわりの理由が、今回のお話を聞いてわかったような気がする。



「できました！渡日生用教材（理科）」

「私がこだわったのは居場所なんです」

最初に井上さんがこれまで勤務した学校の渡日生徒との出会いの話があった。子どもたちと出会っていく中で「友誼交流会」「国際交流クラブ」「世界探検クラブ」を作り、その子どもたちの思いを受けとめてきた。親の都合で日本に来て、言葉の壁、文化の違い、そして差別に悩む子どもたちにとって、日本で生きていくために居場所はなくてはならないもの。不安と緊張の連続の中で、「ほっとする」「安心する」「本来の自分の姿が出せる」そして「元気が出る」のが居場所だという井上さんの言葉に、本当にそうだと思う。居場所があるから頑張れる。渡日してきた生徒も自分の学校、クラス、クラブが次第に居場所になって、ここで頑張ろうという気持ちがあって、初めて日本語を頑張ろう、授業をがんばろうという気持ちになる。

「日本語で教えて、なにも困らなかった」

日本語がわからない生徒に教科の説明をするのは無理だと思い込んでいる先生は多い。でも、そんなことはない。「教科内容と日本語は別物」と井上さんは言う。渡日生徒が理科の授業を理解するために今まで、いろいろな教材を作ってきた。「対訳補助教材」「リライト教材」「パターン練習教材」そして今回の「渡日生のための理科教材1年」。目指したものは「点をとるための教材」。日本語を可能な限りそぎ落として理科の教科内容をわかりやすく説明している。実際私も来日9か月、中学3年生の中国出身の生徒と、以前井上さんが作った3年生の内容の教材を使って一緒に勉強した。期末テスト前の2回だけだったが、なんとその生徒はテストで60点台を取ることができた。本人も教科担当の先生も驚いたそう。今まで英語と数学は何とか点を取ってきたが、実際、理科、社会など、その他の教科はあきらめてきた。でも今回全教科の中で一番点を取ることができた。点を取ることで勉強へのモチベーションがとて上がる。

「日本語がわからないからと、放置しない」「日本語の習得を待ってられない」「教科の特性にこだわった教え方を考えるべきだ」「今から教科の授業を教えるべきだ」という井上さんの言葉を、より多くの学校の先生に聞いてほしいと思った。



「外国人保護者対象の母語教育講演会 開催」

(にほんごサポートひまわり会)

私たちは地域で日本語支援のボランティアをしています。多くの外国人保護者が子どもの言葉の問題で悩んでいます。「子どもが親の言葉を理解できない」とか、「学校から泣いて帰った子どもに、どうしたのか尋ねたが、母語でも日本語でも説明できないので困った」とか「バイリンガルに育てるにはどうしたらいいか」など相談されることがあります。



それで、今回、母語教育を専門とされている大阪大学の真嶋潤子教授と櫻井千穂さん、孫成志さんを講師にお招きし、7月6日(日)午後2時から2時間半、大阪府立市民交流センターひらので、専門家と直接話せる講演会を開催したところ、26人(夫婦参加5組)の方々が来られました。

前半は、真嶋先生が母語の重要性とバイリンガルに関わる要素、成功事例、子どもをバイリンガルに育てるために保護者ができることについて話されました。後半は、中国語、スペイン語、タイ語・ベトナム語の3班に分かれて、直接母語で先生方に質問し、経験交流しました。参加者が次々に発言して、時間の経過を忘れるほど盛り上がりました。

講演では通訳がつき、レジュメは多言語で、別に保育室を設け17人の乳幼児・児童を預かるなどしたこともあり、参加者にはたいへん好評でした。アンケートには、「たいへんよかった」「母語の重要性、子どもの言葉の育て方がよく理解できた」「アドバイスが参考になった」「グループで他の人の経験が聞けたのもよかった」等の声をいただきました。
(にほんごサポートひまわり会 斎藤裕子)



ころちゃんお役立ち情報 (7)



4. インターネット上の日本語学習サイト

・NIHONGO e な (国際交流基金関西国際センター)

<http://nihongo-e-na.com/>

日本語を勉強する人に役立つサイトやツール、アイデアを紹介しています。読む、書く、聞く、話す、文法、語彙、かな、漢字、ツール、辞書・翻訳、文化・社会、その他のカテゴリ別に、アイデアを探すことができます。自分に合ったサイトを見つけて学習できるので、おすすめです。

・AJALT (国際日本語普及協会)

<http://www.ajalt.org/online/>

オンライン教材の中の「漢字で学ぶ日本語」はおすすめです。

・JLPT 日本語能力試験 (国際交流基金・日本国際教育支援協会)

<http://www.jlpt.jp/about/index.html>

日本語能力試験対策に関しては「JLPT 日本語能力試験」HPに情報がたくさんあります。また「日本語能力試験 学習サイト」で検索すると、試験制度変更前の旧試験対策のサイトなども出てきます。新試験の問題のスタイルは、旧試験とあまり変わっていないので活用できます。

特別寄稿

カナダ・トロントでの異文化理解教育等の研究会に参加して

真嶋潤子(おおさかこども多文化センター会員、大阪大学教授)

編集部より

編集部では以前より大阪大学の真嶋潤子先生に OKoTaC 通信への執筆をお願いしていたところ、このほど実現しました。真嶋先生は当 NPO 創立以来の会員であり、かつ多くの面で NPO 活動に支援協力をいただいております。

今年のゴールデンウィークに、カナダのトロント大学教育大学院(OISE)とトロント地区教育委員会の共催で行われた「言語的多様性を祝う年次大会 2014 (Celebrating Linguistic Diversity Annual Conference 2014 Toronto)」に参加しました。

その会には海外からも含め数百人の参加者があり、バイリンガル教育や異文化理解教育などに関して、多くの実践報告や研究発表、講演会などが行われました。今回の大会は、カナダのバイリンガル教育の推進にこれまで多大の貢献をしてこられたジム・カミンズ先生が今年定年退職されることを記念する側面がありました。

カミンズ先生と言えば、「生活言語と学習言語(BICS と CALP)」という概念に用語を与えた方です。(その後修正がなされていますが、詳細はカミンズ著 中島和子訳著 2011『言語マイノリティを支える教育』などをご覧ください。)

記念すべきそのような大会に参加することができただけでも光栄でしたが、私は中島先生をコーディネーターとし、リリアン・テルミ・ハタノ先生、小貫大輔先生、古石篤子先生と共にパネラーとして発表する機会を得て、カミンズ先生の理論が日本の年少者教育の研究者や実践者に与えたインパクトについて、「日本のニューカマーの子どもたち」というテーマでお話しさせていただきました。

大会中に多くの実践報告や教材、移民の児童生徒の「アイデンティティ・テキスト」と呼ばれる作品紹介などを見る機会を得ました。特に印象的だったのは、私が参加した分科会の一つで、英語指導の先生に連れてこられた「元難民」の少女が発表してくれたことです。その小学5年生の女の子はイラクの難民で、ESL(第二言語としての英語)クラスで頑張って英語ができるようになっただけでなく、困っている人のためのお金を子どもたちで集めて寄付をするという活動を行った経験を、しっかりした英語で話してくれました。自分のアイデンティティを確立していく中で、「助けてもらう子ども」から「人助けをする子ども」へと成長し、「将来は人のためになる仕事をしたい」と何事にも意欲的な少女でした。英語で堂々と、先生たちの会議で発表するという経験をしていることから、非常に自信をつけ高い自尊心を持っていることが伺えました。

発表の最後に、会場にも来ていたお母さん手作りのバクラバ(ナッツパイの蜜漬け菓子)を売って、そのお金を困っている人のために使いたいということでしたので、私も喜んで協力しました。

社会的に弱く、何もできない子ども、教室の「お客さん」といった「社会のコスト」と思われがちな難民の子どもが、主体性を持って学び、自分のことができるようになった上に、社会の困っている人を助けるために自分に何ができるかを考えて、情報を集め、周りの人に相談し、協力を得て実行している姿を目の当たりにしました。子どもたちにそのような指導をし、励まし、社会の宝に成長させるという過程を垣間みせてもらい、カナダの将来は明るいという印象を得ました。





海外からのたよりをお届けします～

メキシコ便り⑩ 「アルゼンチン・サルタ」

(おおさかこども多文化センター会員・金野広美)

サルタはブエノスアイレスから 1600 キロ。ブエノスアイレスがタンゴのメッカなら、ここはアルゼンチンフォルクローレが盛んなところ。町中どこからともなくフォルクローレの音楽が聞こえてきます。着いた日の夜ペーニャ(フォルクローレが聞けるライブハウス)が集まるパセオ・バルカルセと呼ばれる一画に行きました。完全に歩行者天国になっていて、一晩中各ペーニャやレストランではい



ろいろなグループが歌っています。その中のひとつに入り、チャンゴ・デ・サルタという男性 3 人組の骨太の歌を聞きました。

次の日はアルゼンチンが生んだ「フォルクローレの巨人」と呼ばれているアタワルタ・ユパンキの生誕百年祭のコンサートが、街の中心にある 7 月 9 日広場の前のテアトロ・プロビシアルでありました。2500 人は入る会場は無料ということもあるのですが、満杯でした。ユパンキゆかりの人たちが彼の思い出を語り、マリーナ・カリーソやト

ーマス・リパンが歌うユパンキの作品を堪能しました。

彼の代表作に「トゥクマンの月」というのがあります。これはアルゼンチンに軍政がしかれていた時期、ユパンキが故郷に帰れず、フランスで望郷の思いを込めて作った曲だといわれていますが、私はこの曲が大好きで、長年トゥクマンに行ってこれを歌いたいと思っていました。

トゥクマンはサルタからバスで 5 時間のところにある、コロニアル建築が残る美しい街だそうです。しかし、バスの便が悪くて時間に余裕がなく、行くことができませんでした。でも、このコンサートの最後に会場も含めた全員で「トゥクマンの月」を歌いましょうという司会者のよびかけに、心をこめて一生懸命歌いました。

歌い終わった時、隣に坐っていたヘクトル・モラレスという初老の男性が話しかけてきました。彼もユパンキが大好きだそうで、ユパンキやアルゼンチンフォルクローレ、果てはチリのフォルクローレの話になり、「キラパジュンやビクトル・ハラも好きだ」と彼が言ったとき、何だかとてもうれしくなりました。私がメキシコでの生活について話すと、彼もメキシコに 5 年間いたそうで、おまけに私の家の近くだったためローカルな話で盛り上がりすぎてしまいました。そしてなぜメキシコにいたのか聞いた時、「亡命していたんだよ」とさらりと言われ、一瞬時間が止まってしまいました。

アルゼンチンでは 1976 年ホルヘ・ラファエル・ビデラ大統領が指揮する軍事政権が発足、国内のペロン(元大統領のファン・ドミンゴ・ペロン)支持派や左翼勢力を弾圧したため、3 万人が姿を消したといわれています。彼もこの時アルゼンチンを出たそうで、メキシコ、ボリビアで暮らしたといえます。今では柔和な年金生活者といった風情の彼は私をホテルまで送ってくれ、「いい旅をしてくださいね」と言ってくれました。そんな彼の背中を見送りながら、私はこれからの人生がどうぞいつまでも平安でありますようにと祈らずにはいられませんでした。





『しゅうくわん曙光中高生クラス』(大阪府東大阪市)



曙光は外国にルーツを持つ方の支援を行うため、24年前に立ち上げられました。当時は数少なく孤立していた外国の方(主に中国の方)が集まり、親の会として始まりました。現在は3つの教室で活動しております。社会人向けの日本語指導を行う大人クラス、小学生に中国語の母語指導を行う小学生クラス、そしてもう一つが今年の4月新しくできた中高生クラスです。

曙光は東大阪の鴻池という地域にあり、中国の方がたくさん住んでいます。最近来日したばかりの中学生や高校生も少なくありません。その子たちが日本の学校に入り、多くの困難にぶち当たります。まず言語がわからないというのが最初の課題です。そんな中「日本語がわからないから、どうせ日本語の教科書を読んでもわからないだろう」とあきらめてしまう子が多いです。しかし、「子どもたちに中国の言葉で勉強を教えたら、どんどん食いついてきて、面白い質問もたくさんしてくる」と、教室に携わる人が自分の経験から言います。子どもたちは本当は勉強したい気持ちがあるのに、日本語がわからないために、勉強をあきらめてしまうのは大変残念なことで、このことが中高生クラスができたきっかけになりました。

この教室の特徴は、まず一つ目は、先ほども触れたように中国語での日本語指導、教科指導です。二つ目は、さまざまなボランティアが参加していることです。子どもたちと同じような経験をしてきた当事者だけではなく、留学生、社会人もいます。子どもたちにさまざまな人と触れ合ってもらい、世界を広げるのが狙いです。三つ目は、勉強が始まる前に心を落ち着かせるため、お習字をします。子どもの成長にプラスになるような世界の名言を集め、薄く印刷し、鉛筆でなぞってもらいます。子どもだけでなく、教室にいるボランティアも含めてみんなで書きます。四つ目は、勉強だけではなく、子どもの居場所づくりという面でも努力しております。子どもたちの悩みを聞き、何気ない雑談をしながら、その子の普段の生活を知り、その子にとって今、何が必要なのかを考えるように心がけています。またほかには、毎回始まる前と終わった後それぞれ約30分ずつのミーティングをします。ボランティアの方がそれぞれ子どもと触れ合っていく中で、自分の気づいたこと、疑問に思ったことを話し合い、一緒に子どもを理解し、解決方法を探っていきます。8月には遠足の予定もしており、そこでも触れ合いのいい場が作れたらと思います。

現時点では、教室に来ている子は主に中国からですが、もちろん、他の国にルーツを持つ子も受け入れをしております。

中高生クラスは今では毎月2回、第一、三週目の土曜日に活動していますが、将来的には毎週の活動ができるようにしていきたいと考えております。そして、ひとりひとりの子どもときちんと向き合えるような1対1の個別指導も目指していきたいと思っています。そのためにはボランティアの確保が非常に大事ですが、今、人が足らず、それらを実現させることはとても困難な状況にあります。曙光の教室に興味がある方は、ぜひ一度声をかけていただき、お力を貸していただければ幸いです。メンバー一同歓迎いたします。

(曙光中高生クラス 蘇 恵)

会 場 : 東大阪市中鴻池 リージョンセンター 2階 第2会議室

日 時 : 毎月第1・第3土曜日の18:30~20:30

問い合わせ先 : norimuramegumi@gmail.com (蘇 恵)





外国にルーツを持つ子どもたちの支援や 多文化共生のための活動に関わる
ご協力をお願いや募集、オコタックからのお知らせなどを随時掲載します。
(お問合せは直接それぞれの連絡先へお願いします)

OKoTaC 掲示板

▼『ころちゃんクリアファイル作成企画 新しい募集方法を加え延長します!』

前号でもお知らせをしたオコタックのマスコットであり、かつマルチリンガル犬でもある「ころちゃん」のイラスト入りクリアファイルを作成します。その際、会員や一般のみなさまからの資金調達を「クラウドファンディング」という新たな形で行うという試みです。詳しくは以下の URL にアクセスし、オコタックの企画をご覧のうえ、ご協力をお願いします。

<http://dreamsstarter.com/> 9月18日(木)までにアクセスしてください。

寄付方法の追加及び9月19日以降の期間延長

今回の企画はインターネットでクレジット決済を利用するものですが、この決済方法に不安があり、参加しづらいという声があがりました。そこで、そのような方に、下記奥付にある郵便振替などで「ころちゃんクリアファイル作成企画」に協力していただく方法も用意しました。NPO スタッフに直接お渡しいただいても結構です。

9月18日まではクラウドファンディング「ドリスタ」上の結果に反映させていただき、それ以降はNPO 独自で受付させていただきます。最終的な期限は10月31日(金)とさせていただきますが、結果をおおさかこども多文化センターのホームページに発表させていただきます。連絡・問合せは下記奥付にあるメールアドレス、電話番号までお願いします。



イベント情報 ～おおさかこども多文化センター主催のイベントです～

今年も開催します!

「多文化にふれる えほんのひろば 2014

～出あってわくわく! いろいろなおはなし、せかいのいろいろなおともだち～

日時 : 2014年11月29日(土)、30日(日) 11:00~16:00

会場 : 大阪市立中央図書館 5階

詳細は次号オコタック通信、当NPOホームページでお知らせします。



NPO 法人 おおさかこども多文化センター

代表 村上 自子

〒550-0005 大阪市西区西本町 1-7-7 CE 西本町ビル 8階

Tel / Fax 06-6586-9477

E-mail osakakodomo@gmail.com

URL <http://okotac.org>

郵便振替 【記号・番号】00940-1-272824

(他金融機関からは【店名】〇九九(ゼツキウキウ))

【店番】099【預金種目】当座【口座番号】0272824

口座名義『NPO法人 おおさかこども多文化センター』

(フリガナ: トクヒ) オオサカコドモタブンカセンター

